

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900532		
法人名	特定非営利活動法人 こうえい会		
事業所名	グループホーム こうえい館		
所在地	旭川市豊岡8条8丁目1番3号		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900532-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成31年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営者は、外部の各種研修への積極的な参加を援助して、職員の認知症ケアの向上を図り、入居者の幸せな生活や喜びの実現を目指しています。事業所内でも勉強会やケア会議、日々の申し送り時において、入居者の状況や病状、認知症状に合わせた対応の仕方等について、検討を重ねています。天気、気候の良い時期には、廊下から自由にデッキに出ることが出来るので、風や陽に当たりながらお茶飲みしたり、おやつを食べたり、おしゃべりする等、家庭的な雰囲気大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護保険制度発足と同時に開設され、地域の認知症ケア専門職としての先駆的役割りを果たしている平成12年4月開設の木造、サイディング2階建て1階部分1ユニット(定員:9名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。
毎月、開設より法人内の勉強会を継続的に開催して人材を育成する取り組みや職員の段階に応じたOJTの実施で、個々の職員のスキルアップ及びケアサービスの質の向上を進めている。
また、事業所の持つ専門性を活かして医大生の実習や中学生の体験学習の受け入れ等で地域との協力・連携に努めたり、利用者一人ひとりのその日の希望に沿って、大型ショッピングセンターでの買い物や夏祭りのショー見物、地域のお祭りの出店を楽しんだり、回転寿司やレストランでの外食など普段では出かけられないような場所でも戸外に出かけられるよう支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある			○	3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の詳細について、運営者から説明を受け、玄関と事務室壁に掲示している。ケアプラン作成中も、ケアの提供中も、理念に沿っているか振り返りながら取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、創業当時の理念を毎月勉強会を通じて職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会費を払い町内会に入会しており、管理者は町内の定期総会に出席し、輪番で班長も担っている。館前を通る児童たちとはこやかに挨拶を交わしている。	町内会の役員を引き受けたり、地域のお祭りや地域の清掃事業等への参加、医大生の実習や中学校のインターンシップ受け入れなど地域の人々との交流・連携に取り組んでいる。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症に関する事をお伝えし、地域の方に認知症理解を深めて頂いている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、重度化した時の対応、介護施設に思う事、口腔ケアについて、自己評価についてお伝えし、感想や意見を頂いている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催して、事業所の取り組み状況や災害対策、事故防止対策等の具体的内容について話し合い、そこでの意見を運営に反映できるように活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修会や説明会に、運営者や管理者が出席し、事業所内でも検討し、法人内の勉強会で職員に伝えている。	市担当者及び包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、指導や助言等を得ながら、協力関係を築くように取り組んでいる。また、認知症介護指導者として地域貢献している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会規定があり、職員に周知し、身体拘束は行っていない。転倒危険のある方には、センサー設置で危険を回避している。館前は交通量の多い道路があり、玄関の施錠は行っているが、廊下のベランダからは、自由にデッキに出る事が可能で、希望や状況により、散歩や買い物等の外出を行っている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を法人の身体拘束廃止委員会規定に基づき、内部研修会開催で職員間で共有して、正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、廊下のベランダから、ウッドデッキに自由に出ることができ、本人の意向を尊重した取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学ぶ機会を持っており、入居者の日々の暮らしぶりや様子、身体や表情を観察し、虐待が見逃されない様注意している。皮下出血のある時は、痛みの有無や動き、原因確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが、活用すべき事態は発生していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時には利用契約書、各種加算、費用等の書類をお見せして十分説明した後、署名捺印を頂いている。ご家族から認知症状による困惑も伺い、経済的心配にも対応し、理解納得を頂いてから、入居契約を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が不快、不満、不都合と感じる、環境や施設備品、職員の対応等について運営者に相談し対応している。また、ご家族が思いや希望を伝えやすい雰囲気作りも心掛けている。館内には、国保連合会への直通電話のポスターを掲示している。	苦情等の第三者機関への申し出先、苦情担当受付窓口を明示していると共に家族会を開催して、意見や苦情等を言い表せる機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や要望、不満等を管理者が受けた場合、定期的な会議により運営者に伝える機会が設けられ、検討、対処している。内容や状況によっては都度の報告を行う場合もある。	定期的なミーティングや毎月の勉強会開催、日常業務を通じて、職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士等への資格取得の挑戦を積極的に勧め、勉強の場を提供し、助成金制度や資格取得による昇給もある。また、認知症ケアの事例検討や学びの発表の場もあり、実践力向上ややりがいのある職場作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は、OJTの他、スタッフ研修等の外部研修の案内を積極的に行い、人材育成に力を入れている。研修受講の学びや成果を、法人内の勉強会で発表の機会もあり、職員全員で共有し、スキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	実践者研修やリーダー研修等の外部実習者と話す機会があり、意見交換や交流を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず管理者がご本人と面談し、会話の中から思いや希望を感じるよう努めている。入居後暫くは、新しい環境に慣れていただく事に気を配り、本人の言葉を傾聴しながら、寄り添いの時間を多く持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の発症や悪化、周辺症状、身体機能の低下等、ご家族は辛い思いを抱えていらっしゃる方が多い。思いを受け止め、ご苦勞をねぎらい、希望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとってより良い支援は何なのかを、ご家族との話し合いを進める中で見つめるよう努めている。現在、必要に応じ、訪問診療と、訪問口腔ケアを受けている方がいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器拭き、床のモップ掛け、庭の手入れや野菜類の収穫等、出来る事や得意な事を、自由に思いのまま担って頂き、入居者と職員は互いに助け合いながら過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来館の際には、最近の様子を伝える等でコミュニケーションを心掛けている。過去の暮らしぶりや好みをご家族から伺い、ご本人の喜びに繋がる関りを相談している。ご家族はご本人との外出や外食により絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前親しかった知人の方の来館はあるが、認知症の進行により、関係の継続は困難な場合が多い。	近隣の散歩やスーパーでの買い物、子どもたちとの交流や回転寿司などの外食等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	好ましい人と苦手な人がそれぞれあり、認知症状も加わって事実とは異なる思い込みや妄想も有るが、互いの居室を訪れたり、庭作業や家事仕事を共同で行ったり、体操やレク活動、懐メロ歌い等に興じたりしている。トラブル時には職員が間をとりもち、関わりの支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	故人のご家族で懐かしく思われて来館される方もおられ、ウエス等の寄付を頂く事がある。気軽に来館しやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、希望や好みを推察したり、直接質問したり、意向を出し易い雰囲気づくりにも配慮している。意思表示の困難な方には、ご家族から聞き、表情や行動からの推察を行い、職員間で検討や共有に努めている。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、カンファレンスやモニタリング等で情報を職員間で共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お宅訪問や、施設や入院先での暮らしの様子を見せて頂き、ご家族からお聞きしている。また、サービス利用の際の担当ケアマネさんや看護師さんからの聞き取りや、サマリー等で情報を集め、入居後のケアの参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事摂取の力、排泄意思や着脱の手順理解力等の状態を把握し、自力で極力行える関わりの工夫や環境整備を行い、思いや希望に合う過ごし方を援助し、認知症状の変化を観察している。個人日誌にその変化や様子を記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子、特変、認知症状等についての報告や話し合いを、職員と計画作成担当者との間で、日常的に行われている。主治医や看護師からも助言を頂き、ご家族からも希望を伺うよう努め、作成している。	本人・家族の意向や要望、医師及び看護師からの指導や助言、モニタリングやカンファレンス等で職員からの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、毎月発行のたよりで日常の生活の様子など情報提供している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを個人日誌に付け、毎日ケアの内容を確認しながら具体的な実践記録を書くようにしている。1ヶ月ごとに評価をまとめ、ケア会議で介護計画を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの車両で、入退院や受診、花見、ドライブ、大型店へのショッピング等、本人の希望に添う外出支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身体的にお元気な方は、近隣公民館の文化祭、夏祭りのショー、地域のお祭りの出店巡り、回転寿司やレストランで外食等、暮らしを楽しむ事が可能。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受けるか、外来受診にするのかは、希望や身体状況により、選択が可能。病状の特変や変化時は、ご家族の同行同席もお願いし、必要時は専門医受診をお願いしている。	訪問診療の利用や通院への支援、日常の健康管理等で適切な医療を受けられるようにしている。また、受診は、本人及び家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携体制により、日常の様子で気になる点について職員から看護師に報告し、健康管理や医療関連のアドバイスを受けている。病気の見極めや重要観点についても指導頂き、受診時の病状報告にも役立っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者がご家族と共に医師から病状や治療計画の説明を受け、本人が安心の看護が受けられる様、病棟看護師に認知症状や生活状況を伝えている。入院中は適宜面会に行き、担当医師や看護師よりお話を伺いながら病態の把握に努め、早期退院に向けての相談も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	病状悪化や急変の可能性のある方には、医師より延命希望を伺う事があり、医療者とご家族と法人の三者で話し合いの場を持ち、重度期における介護覚書を作成している。病状や状況、希望により、グループホームでの看取りも行っている。	ターミナルケアを実践しており、継続的に看取りの研修会を開催している。また、重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を2年に1回程受け、心肺蘇生法や手当の方法を学んでいる。緊急時に医療に繋げる情報整理や搬送先の確認等を行い、もしもの時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全な避難や状況に応じた避難方法の話し合いと避難訓練を、年2回行い、記録している。運営推進会議で地域の方にもお伝えし、意見等を伺っている。	北海道胆振東部地震、ブラックアウトの経験を踏まえて、緊急時の対応の見直しを実施している。また、昼夜を想定した年2回の避難訓練を実施している。	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症による失敗や失行、失禁、繰り返しの言動等は、他者から嘲笑や非難を受けてしまう事があるので、職員が協力しながら、素早い対応や片付けを行っている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を認知症ケア等の継続した研修会を開催し、職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい、買いたい、出掛けたい等の希望があれば、体調や状況を勘案し、思いに添っている。希望の言えない方には、理解力に合わせて、選ぶという形で自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日課や決まりは無いので、買い物や散歩、庭作業、ボール遊びや懐メロ、カード遊びやお喋り等、それぞれの思いや気分、体調に合わせて暮らしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容が困難な方には、起床時や外出前に職員が介助している。ご家族や本人から髪型の希望を行い、髪カットは訪問美容師に依頼している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を直接伺ったり、テレビや雑誌で美味しそうと言うのを気に留め推察する等でメニューに加えている。昼食は職員も一緒に食卓について一緒に食べ、下膳や食器拭き等、出来る事は担って頂いている。	一人ひとりの好みや力を活かして、職員と一緒に食事の準備や後片付けなどしている。また、回転寿司やレストランでの外食などにも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取表で飲食量を記録確認し、咀嚼や飲み込み、嚥下状態や病態により、ミキサー食やトロミ食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	独歩の方は毎食後洗面台に行き、自菌や義歯をブラッシングしている。移動が難しい方は、食卓やベッド上で口腔ケアを行い、口漱ぎ可能な方はガーグルベースを使い、難しい方は口腔清拭を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表での記録確認でパターンの把握と、行動観察による尿意便意の推察でトイレに誘い、失禁を減らせるように努めている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、誘導や声かけ等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表により頻度と量を把握し、食事面では野菜やイモ類、根菜類、乳製品、水分等の適正摂取を心掛け、運動面では館内歩行や家事仕事、外散歩や庭作業等で自然な活動を日常にお勧めしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴日には、時間の希望を伺い入って頂いている。認知症により希望を適切に表わせない方には、表情や様子を見てお誘いのタイミングを勘案したり、排泄後に気持ちよく入って頂く等行っている。	週2回を目安に一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴支援をしている。また、個々に沿った柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間に心地よい適度な活動や作業により、夜間の安眠を目指している。認知症により適度な休息が難しい方には、体調や様子により、居室で横になって貰っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から発行される説明書により、薬の効能や注意事項の確認に努めている。個々の病気や既往症を把握し、薬の増減や変更後は特変や状態変化の有無を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の花や作物の世話、家事仕事等を自らの希望や意思で行い、職員からのお礼の言葉に笑みがこぼれる。懐メロや童謡を口ずさみ、体操やボール投げを頑張り、外食や外出を喜ぶ等、それぞれの楽しみがある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あらかじめの予定の場合もあるが、天気や気温で、外出したい気分の時に散歩や買い物に出掛けている。ご家族と共に外食やお茶のみに出掛けられている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、大型ショッピングセンターでの買い物や夏祭りのショー見物、地域のお祭りの出店を楽しんだり、回転寿司やレストランでの外食など普段では出かけられないような場所でも戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が無い不安を感じている認知症の方のお気持ちを思いながら、事務所で小遣いをお預かりしている。買い物の楽しみは大きく、本人が欲しい物を選び購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚の方からの電話で、希望があれば電話に出て頂いている。絵手紙や絵葉書が届くと、本人にお渡しし、居室に飾っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	正月や節句等、季節が分かる置き飾りや壁飾りを用意している。テレビの音量や、窓からの太陽光の遮光具合にも気に掛け、温湿度計で確認しながら、館全体の居心地の良さを感じて頂ける様配慮している。	共用の空間には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真の掲示など生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって、気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は気の向くまま自由な場所で過ごす、認知症による不適切に思われがち発言や行動のある方が非難を受けない様、座る場所は状況や雰囲気をも勘案して職員が誘導する事が多い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの家具や食器、思い出の写真や趣味の小物等を持ってこられ、住み良いお部屋づくりをご家族と共に相談している。	居室には、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれたり、写真や趣味の小物等が飾られて本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、居室、ベッドに必要な応じ手摺を付けている。身体機能の低下があっても、その方の有する力に合わせ、対応や声掛けを心掛けている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームこうえい館

作成日: 平成 31 年 3 月 13 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	32	病状悪化や急変が予想されるので、重度期の介護に不安がある	想定される変化や予兆、病気の知識を深め、医療者へ適切な報告ができるようにする	家族・医療・法人との三者の話し合いを適宜行い、想定される状況の確認と日々の変化等を職員全員で情報共有する。病状を端的に示す事の出来る表現方法を知り、終末期における医療への報告内容は何が必要なのかを学ぶ	1年
2	48	認知症の進行により自発的に楽しみを見つける事が難しい事が増えているが、職員の働きかけが単一になりがちでレク参加を断る場合も多い	新しい楽しみを考案し、提供する	それぞれの好みを勘案し、職員全員でアイデアを出し合い、興味を引きそうな活動で共に楽しみ、張り合いや喜びに繋げる	1年
3	25	遠慮、混乱、機能低下等により、正しい意志や意向が表わし難く、興奮、多動、又は無動に陥り易い	細かなサインを感じ取り、本意を探る	行動の様子や表情、何気ない一言を見逃さず、本意を推察する。不安内容や困っている事を知り、正しく行なわれるよう働きかける。	1年
4	34	突然起こる災害発生時、慌ててしまう事も考えられ、不安がある	様々な状況の違いを想定し、準備を進めたい	今迄の避難訓練の記録を読み返し、様々な想定に対する、注意点や反省点を再確認する。他の災害への対応方法や、備蓄、連絡体制等も確認や整備をする。	1年
5	52	一部の人の思いにより、光や温度の調節がなされてしまう時がある	皆さんが居心地よく過ごせるようにしたい	窓からの太陽光の強さ、ストーブの燃焼具合や室内温度等を、常に気に掛け、不快に至らない様、館全体の居心地を勘案しながら、微調整していく。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。